

資料編

1 アンケート結果

1) 市民アンケート調査の概要

(1) 市民アンケート調査

| | |
|------|---------------------------|
| 調査対象 | 南房総市に居住する 20 歳以上の男女 817 人 |
| 抽出方法 | 住民基本台帳データから無作為に抽出 |
| 調査方法 | 郵送配布・郵送回収 |
| 調査期間 | 平成 31 年 2 月～3 月 |
| 回収数 | 368 名 (回収率 45.0%) |

(2) 事業者アンケート調査

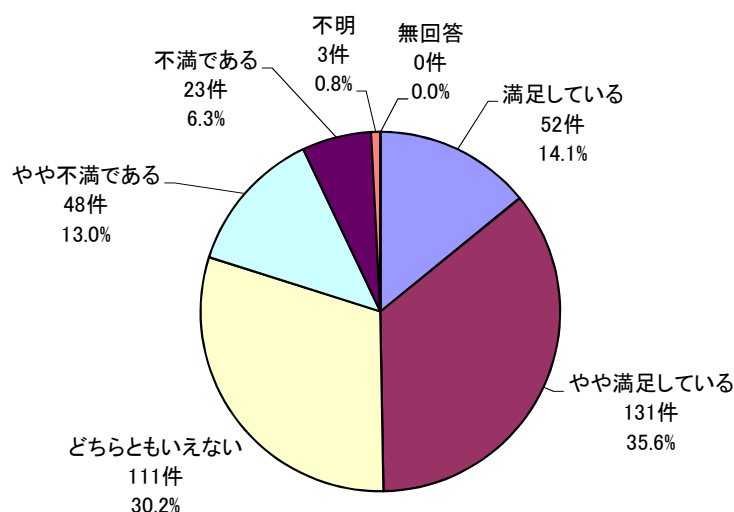
| | |
|------|----------------------|
| 調査対象 | 南房総市内の 300 事業者 |
| 抽出方法 | 南房総市商工会の会員名簿から無作為に抽出 |
| 調査方法 | 郵送配布・郵送回収 |
| 調査期間 | 平成 31 年 2 月～3 月 |
| 回収数 | 103 事業者 (回収率 34.3%) |

2) 意識調査結果 (抜粋)

地域及び地球環境に関する意識、評価、取り組み状況を把握するため、市民及び事業者を対象としたアンケート調査を実施しました。調査結果について、以下に整理します。

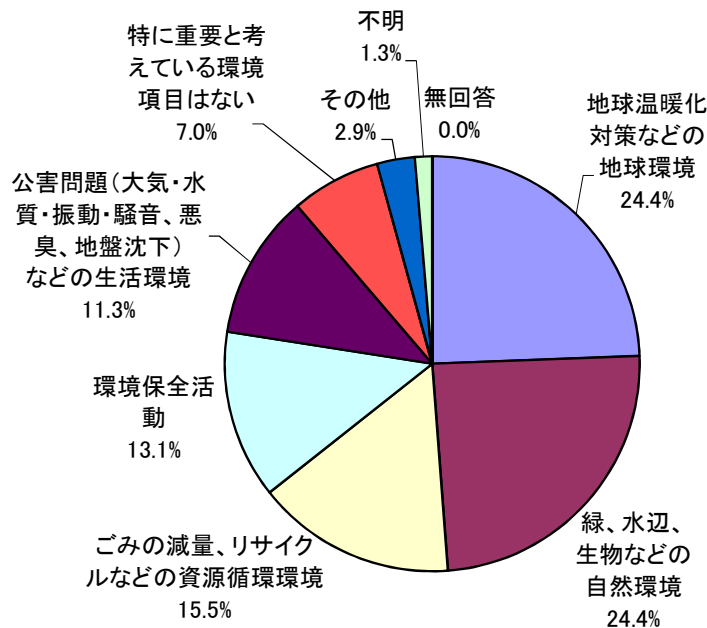
(1) 環境全般について

◆環境に対する市民の満足度は、満足している人（「満足している」と「やや満足している」の合計）の割合が、全体の約 1/2 となっています。

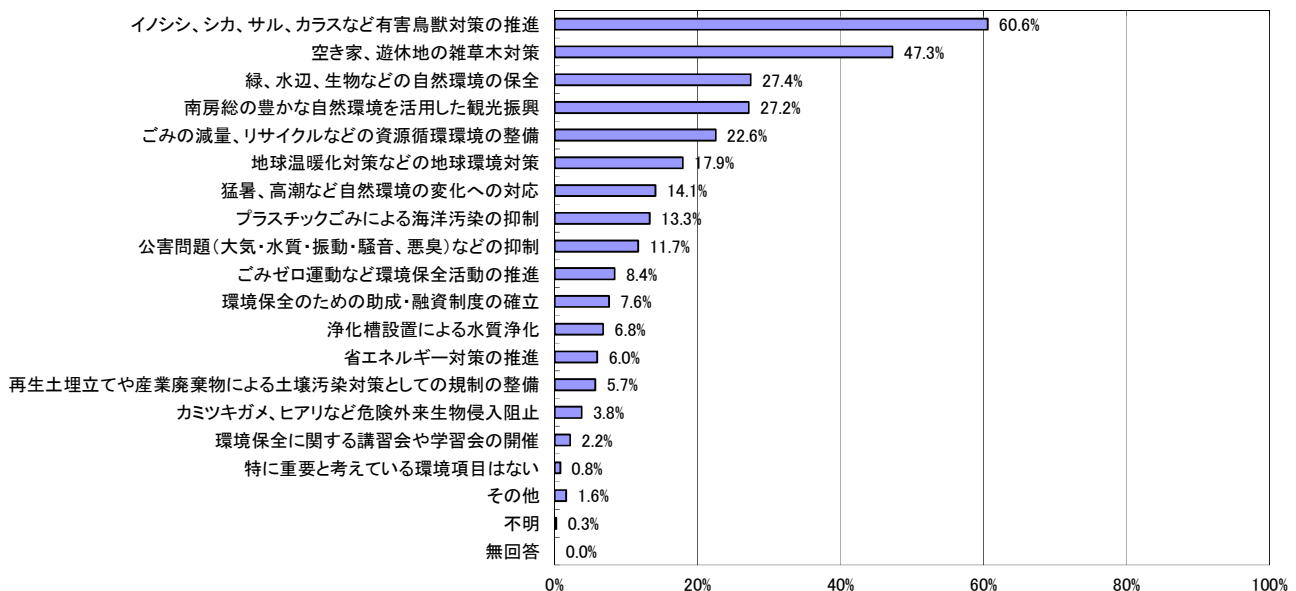


前計画での満足している人の割合（「満足している」と「やや満足している」の合計）は全体の 2/3 でした。近年の地球温暖化や異常気象の頻発により、環境への注目度の高まったことから、個人の環境への意識が高まっていることなどから満足している人の割合が下がったと考えられます。

◆特に重要と考える環境項目は、「地球温暖化対策などの地球環境」、「緑、水辺、生物などの自然環境」が最も高く、続いて「ごみの減量、リサイクルなどの資源循環環境」、「環境保全活動」の順となっています。

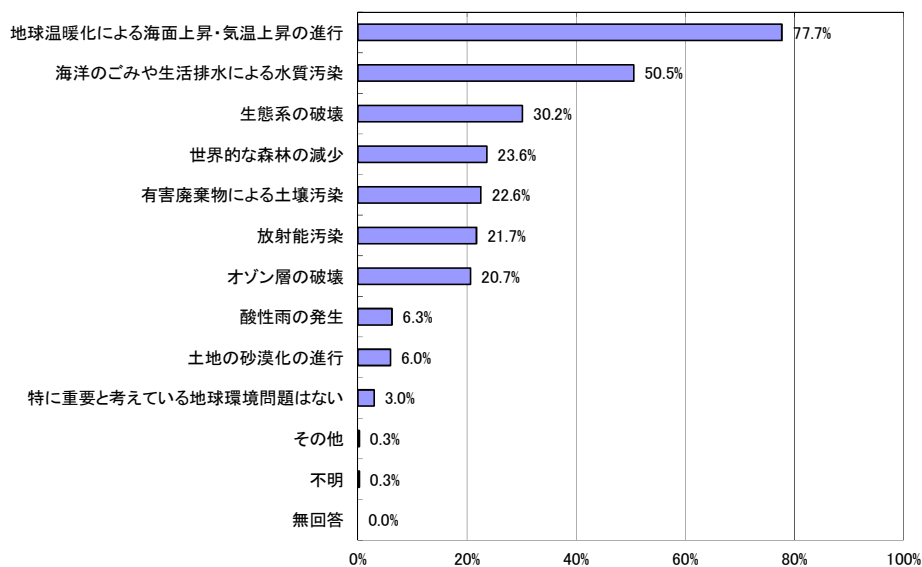


◆南房総市行政に対し期待する環境対策について、「イノシシ、シカ、サル、カラスなど有害鳥獣対策の推進」が最も高く、続いて「空き家、遊休地の雑草木対策」、「緑、水辺、生物などの自然環境の保全」、「南房総の豊かな自然環境を活用した観光振興」の順となっています。



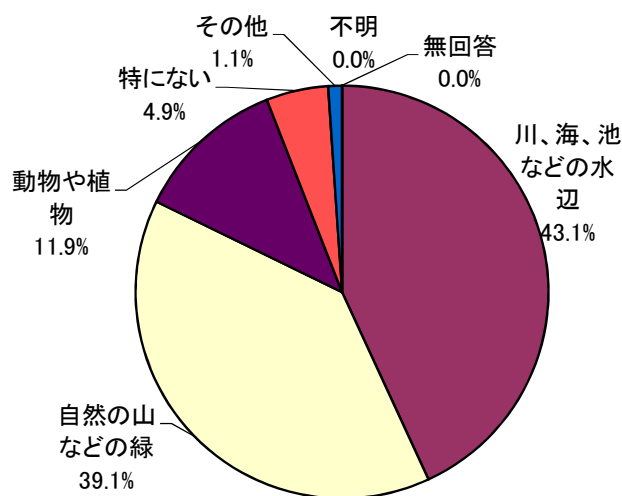
(2) 地球環境について

◆特に重要と考えている地球環境問題について、「地球温暖化による海面上昇・気温上昇の進行」が最も高く、続いて「海洋のごみや生活排水による水質汚染」、「生態系の破壊」、「世界的な森林の減少」の順となっています。



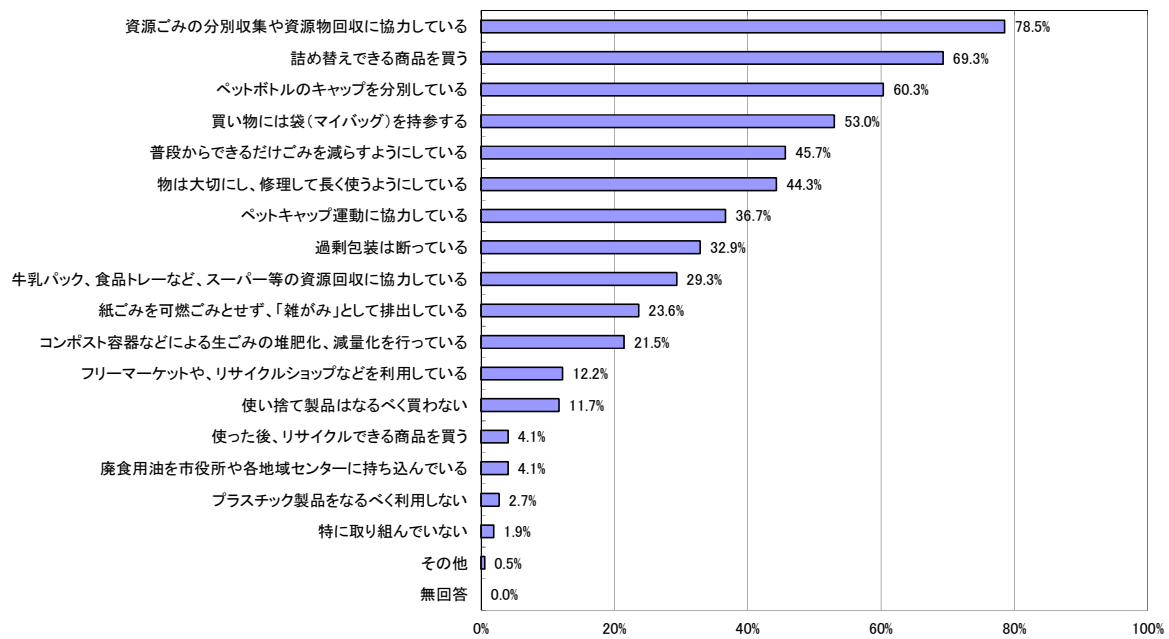
(3) 自然環境について

◆特に重要だと考えている自然環境について、「川、海、池などの水辺」が最も高く、続いて「自然の山などの緑」、「動物や植物」の順になっています。



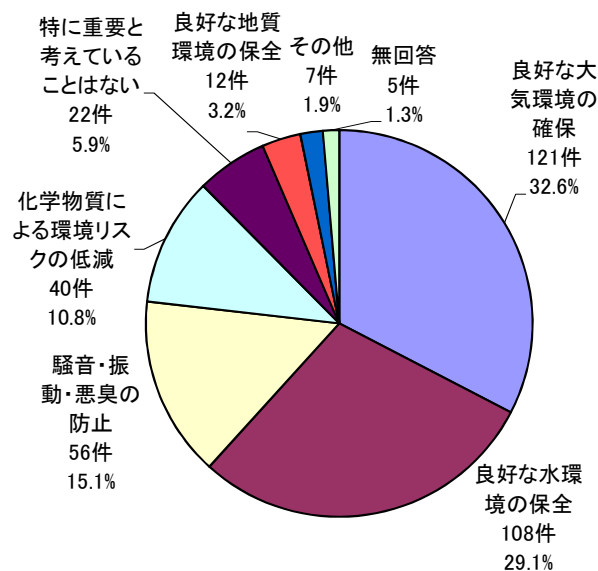
(4) 資源循環環境について

◆ごみの減量、リサイクルで取り組んでいることについて、「資源ごみの分別収集や資源物回収に協力している」が最も高く、続いて「詰め替えできる商品を買う」、「ペットボトルのキャップを分別している」、「買い物には袋（マイバッグ）を持参する」の順となっています。



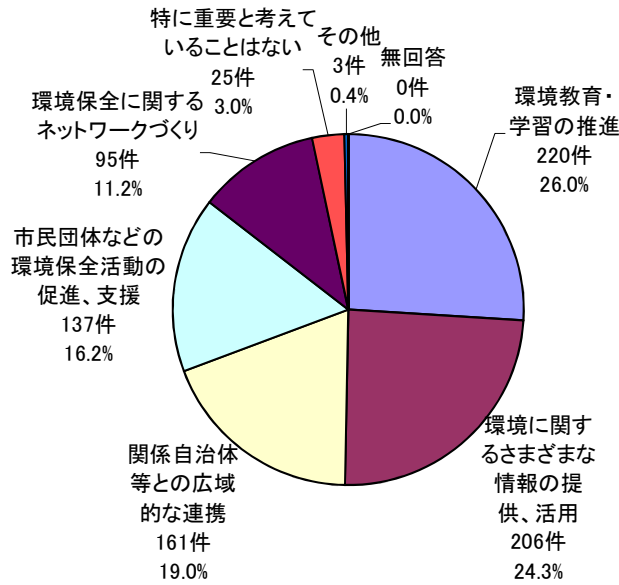
(5) 生活環境について

◆生活を取り巻く環境の中で特に重要だと考えられるものについて、「良好な大気環境の確保」が最も高く、続いて「良好な水環境の保全」、「騒音・振動・悪臭の防止」、「化学物質による環境リスクの低減」の順となっています。

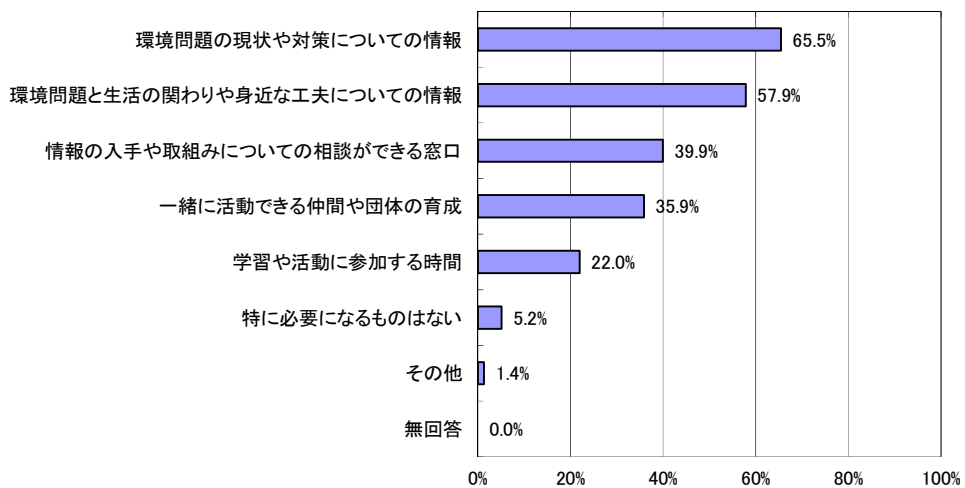


(6) 環境保全活動について

◆環境保全活動を推進していく上で、特に重要だと考えられるものについて、「環境教育・学習の推進」が最も高く、続いて「環境に関するさまざまな情報の提供、活用」、「関係自治体等との広域的な連携」、「市民団体などの環境保全活動の促進、支援」の順となっています。



◆環境保全のために行動しようとするとき必要なものについて、「環境問題の現状や対策についての情報」が最も高く、続いて「環境問題と生活の関わりや身近な工夫についての情報」、「情報の入手や取り組みについての相談ができる窓口」、「一緒に活動できる仲間や団体の育成」の順となっています。



【あ行】

ウォームビズ

暖房時のオフィスの室温を 20℃にした場合でも、ちょっとした工夫により暖かく効率的に格好良く働くことができる秋冬の新しいビジネススタイルの愛称。重ね着をする、温かい食事を摂る、などがその工夫例。

エコアクション 21

中小企業等においても容易に環境配慮の取り組みを進めることができるよう、環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価及び環境報告をひとつに統合した環境配慮のツール。幅広い事業者に対して環境への取り組みを効果的・効率的に行うシステムを構築するための方法を提供している。

温室効果ガス

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンなど、熱を吸収、再放射する性質を持つ気体。大気中の量が増加することにより、地球全体の気温が次第に高くなってきていることが確認されている。

【か行】

外来種

国外や国内の他地域から人為的に導入されることにより、本来の分布域を越えて生息又は生育することとなる生物種。自然状態では生じ得なかった影響を人為的にもたらすものとして問題となっている。

カーボンニュートラル

市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の構成員が、自らの責任と定めることが一般に合理的と認められる範囲の温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、クレジットを購入すること又は他の場所

で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部を埋め合わせること。

合併処理浄化槽

生活排水のうち、し尿（トイレ汚水）と生活雑排水（台所や風呂、洗濯等からの排水）を併せて処理することができる浄化槽をいう。

環境基準

人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として政府が定める行政目標。「環境基本法」に基づき、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音について定められている。

環境マネジメント

事業者が自主的に環境保全に関する取り組みを進めるに当たり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくこと。環境保全に関する方針の構成員への周知、方針に沿った目標の設定と目標達成のための計画の作成、実行のための体制整備、実行状況の監査と見直しの繰り返しにより取り組みが推進される。

グリーン購入

製品やサービスを購入する際に、環境負荷の少ない商品やサービスを優先して購入すること。省エネを意識した家電製品、低公害車、再生品、詰め替え品などの環境配慮型の製品が該当する。

クールビズ

冷房時のオフィスの室温を 28℃にした場合でも、涼しく効率的に格好良く働くことができる夏の新しいビジネススタイルの愛称。ノーネクタイ・ノー上着スタイルがその代表。

【さ行】

里山

都市の近辺にあり、燃料・肥料・生活資材の調達、水源かん養など、生活に深い関わりを持っている森林で、雑木林などの二次林、スギの植林、竹林などで構成される低山や丘陵のこと。

循環型社会

大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会に代わるものとして提示された概念。循環型社会基本法では、「天然資源の消費が抑制され、環境への負荷ができる限り低減された社会」としている。

生活雑排水

家庭からの排水のうち、し尿以外の排水のこと。炊事、洗濯、入浴等により排出される水。

生態系

ある一定地域内で生息・生育している生物群集と、それをとりまく無機的環境要因（光、温度、水、土壌など）を、相互に密接な関係を持つ一つのまとまりとしてとらえたもの。

生物多様性

生物の多様さとその生息環境の多様さのことで、生態系は多様な生物が生息するほど健全であり、安定していると言える。生物多様性は、人類の生存基盤である自然生態系を健全に保持し、生物資源の持続可能な利用を図っていくための基本的な要素である。

【た行】

ダイオキシン類

物の燃焼過程などで非意図的に生成される有機塩素化合物。ダイオキシン類対策特別措置法では、ポリ塩化ジベンゾフラン（135種類）、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン（75種類）、コプラナーPCB（十数種類）の総称と定義されており、人に対する発がん性が指摘されている。

太陽光発電

半導体素子により、太陽光エネルギーを電気に変換するもの。再生可能エネルギーの中でも特に潜在的な導入可能量が多い。

単独処理浄化槽

生活排水の処理において、し尿のみを処理する処理装置をいう。

特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）

エアコン、テレビ、洗濯機、冷蔵庫及び冷凍庫について、小売業者に消費者からの引取り及び引き取った廃家電の製造者等への引渡しを義務付けるとともに、製造業者等に対し引き取った廃家電の一定水準以上のリサイクルの実施を義務付けた法律。

【な行】

二次林

自然林を切った後にできる再生林。里山地域の雑木林のことを示す。古くから人々の生活と関係が深く、木材や薪炭の供給地となっていたが、近年では利用されることがなくなったため、スギの植林地に変えられるなどにより減少している。

農業集落排水

農業振興地域内の農業集落における下水道。農業集落のトイレのし尿、台所・風呂場などから出る生活雑排水を集め、これらを処理して農業用水路や川にもどすことにより、農村をとりまく水環境の保全を図る。

【は行】

パーク&ライド

自宅から自家用車で最寄りの駅またはバス停まで行き、自動車を駐車させた後、バスや鉄道などの公共交通機関を利用して、都心部の目的地に向かうシステムのこと。

バイオマス

再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。主な活用方法としては、農業分野における飼肥料としての利用のほか、燃焼による発電、アルコール発酵、メタン発酵などによる燃料化などのエネルギー利用がある。

排出者責任

廃棄物等を排出する者が、その適正なリサイクル等の処理に関する責任を負うべきとの考え方。

フードマイレージ

輸入食糧の総重量と輸送距離を掛け合わせ、食料の生産地から食卓までの距離が長いほど、輸送にかかる燃料や二酸化炭素の排出量が多くなるため、フードマイレージの高い国ほど、食料の消費が環境に対して大きな負荷を与えているという考え方。

フロン

炭化水素の水素原子のいくつかを塩素原子とフッ素原子で置き換えた人工のガスの総称。化学的性質が安定しているため、エアコンの冷媒やスプレーの噴霧剤などとして幅広く利用されてきたが、オゾン層を破壊する力の強い特定フロンは、現在では国際条約などでその製造や輸入が禁止されている。

粉じん

物の破碎、選別その他の機械的処理等に伴い発生、飛散する物質。

【ら行】

ライフサイクルアセスメント（LCA）

商品やサービスの原料調達から、生産・流通、さらには廃棄・リサイクルに至るまでの一連のライフサイクルにおける環境負荷を、定量的に算定するための手法のこと。

リサイクル（再生利用）

廃棄物等を再利用すること。原材料として再利用するマテリアルリサイクル（再資源化）、焼却して熱エネルギーを回収するサーマルリサイクル（熱回収）がある。

リデュース（発生抑制）

廃棄物の発生自体を抑制すること。リユース、リサイクルに優先される。

リフューズ（断る）

廃棄物になるものを拒否すること。製造・流通地点で発生源を断つこと。

リペア（修理する）

壊れても直せるものは修理して使うこと。

リユース（再使用）

いったん使用された製品や部品、容器等を再使用すること。